



国立研究開発法人

海洋研究開発機構

平成 28 年 4 月 1 日

国立研究開発法人防災科学技術研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

地震・津波観測監視システム「DONET」の移管について

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長 林 春男、以下「防災科研」という）と国立研究開発法人海洋研究開発機構（理事長 平 朝彦、以下「JAMSTEC」という）は、紀伊半島から四国沖の南海トラフにおいて JAMSTEC が開発・整備を進めてきた地震・津波観測監視システム（以下、「DONET」(※)という）の整備が終了したことから、「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日 閣議決定）に基づき、平成 28 年 4 月 1 日をもって JAMSTEC から防災科研に移管となりました。

DONET は、JAMSTEC が文部科学省より、平成 18 年度から受託研究「地震・津波観測監視システム構築」および平成 22 年度から補助事業「地震・津波観測監視システムの開発」として開発・整備を進めてきました。今般、紀伊水道から四国沖にかけて展開する DONET2 が完成したことを受け、DONET1 と合せて、移管となります。

移管後は、防災科研において DONET1 の運用を実施するとともに、DONET2 に関しては JAMSTEC と連携してデータの検証等を行ったうえで本格運用を開始する予定です。

配付先：文部科学記者会、科学記者会、神奈川県政記者クラブ、横須賀市政記者クラブ、青森県政記者会、むつ市政記者会、高知県政記者クラブ、沖縄県政記者クラブ、名護市駐在 3 社、大阪科学・大学記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、新宮中央記者会、新宮記者クラブ、三重県政記者クラブ、尾鷲市記者クラブ、愛知県政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ、徳島県政記者クラブ、筑波研究学園都市記者会

※地震・津波観測監視システム「DONET」(図参照)

海域で発生する地震・津波を常時観測監視するため、南海トラフ周辺の深海底に設置している地震・津波観測監視システム。紀伊半島沖熊野灘の水深約 1,900~4,400m の海底に設置した「DONET1」は、2011 年に本格運用を開始している。「DONET2」は、紀伊水道から四国沖の水深約 1,000~3,600m の海底に設置された。各観測点には強震計、広帯域地震計、水晶水圧計、微差圧計、ハイドロフォン、精密温度計が設置され、地殻変動のようなゆっくりした動きから大きな地震動まであらゆるタイプの海底の動きを観測することができる。

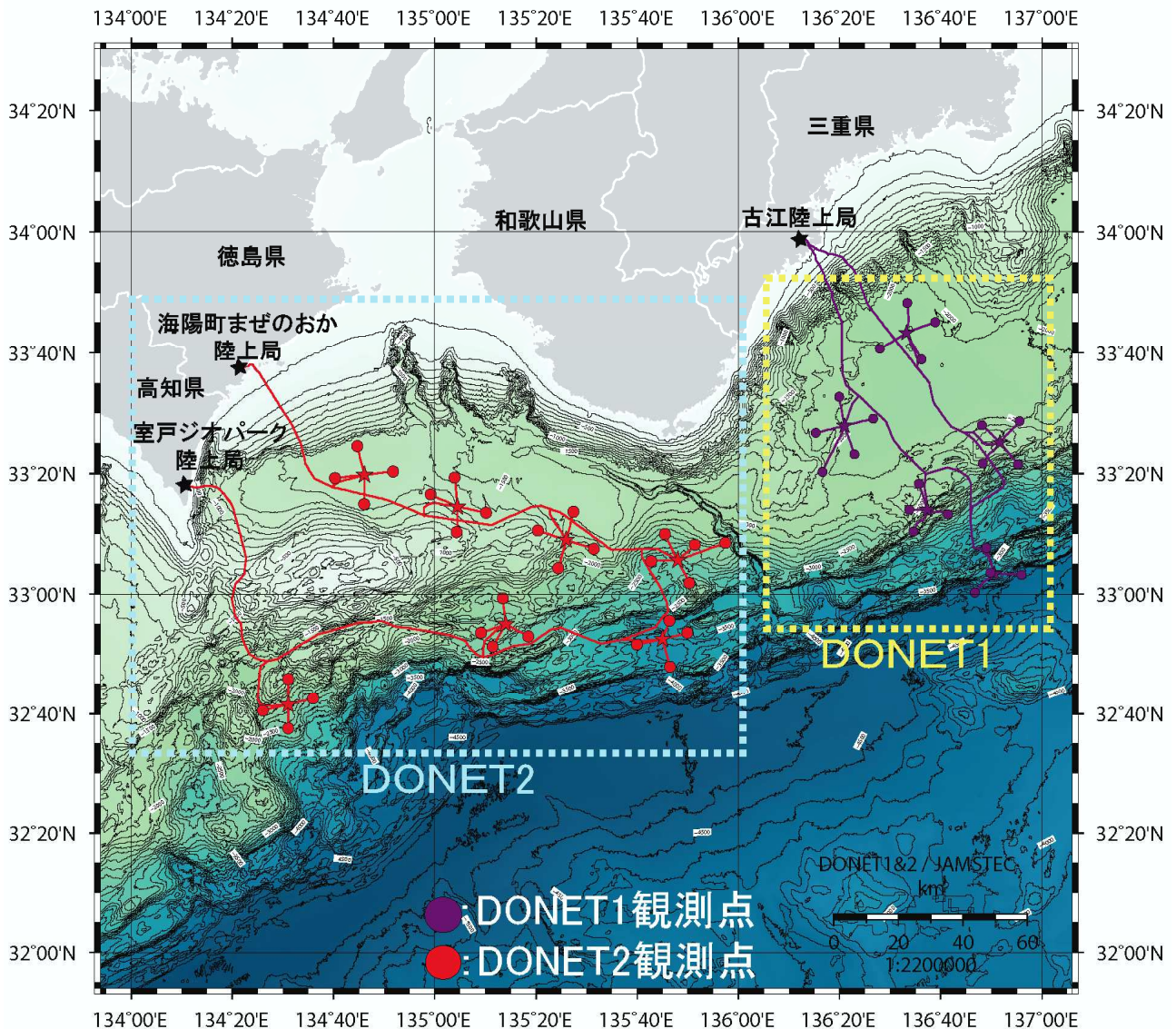


図 紀伊半島から四国沖の南海トラフに設置している DONET 展開図